

奈良県立医科大学

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **60** 2017
May

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.3

「奈良県立医科大学の将来像」の概要



Contents

特集	理事長・学長からのメッセージ vol.3	3
	「奈良県立医科大学の将来像」の概要	4
	平成 29 年度 入学式	6
	平成 28 年度 卒業式	9
	新たなる旅立ち	11
	退任の挨拶	12
	就任の挨拶	13
	平成 29 年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算	14
	MBT 研究所だより	16
	図書館だより	17
Campus News	次世代医療システム産業化フォーラム 2016 に参加しました	18
	ヒトゲノム・遺伝子解析研究研修会を開催しました	18
	大和漢方医学薬学セミナーを開催しました	18
	創業シーズ事業化コンペティションでシーズのプレゼンを行いました	18
	チェンマイ大学との交流	18
	研究倫理教育研修会を開催しました	18
	認知症対応力向上研修を開催しました	19
	ISO15189 の認定を取得しました	19
	京都大学と大学院修士課程の相互単位互換協定を締結しました	19
	春の「すいみんの日」市民公開講座を開催しました	19
	奈良県ドクターヘリ運航開始式を開催しました	19
	法人のシンボルマーク・イメージキャラクターを制定しました	20
寄附者ご芳名	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	20
	「未来への飛躍基金」の寄附者銘板を設置しました	20
Winner Report	第 38 回日本エンドメトリオーシス学会において演題発表賞 (基礎部門) を受賞しました	21
	平成 28 年度 TBL Best Teacher 表彰式を行いました	21
	平成 28 年度 FD 活動表彰式を行いました	21
	第 33 回内藤記念海外研究留学助成金をいただきました	21
	第 32 回欧州泌尿器科学会において The Best Poster 賞を受賞しました	21
E 棟部門紹介	E 棟 5 階 / E 棟 6 階 メディカルバスセンター	22
Information	平成 28 年度 学位授与の状況	23
	平成 28 年度 (第 3 回) 若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定	23
	平成 29 年度入学試験を実施しました	23
	公開講座情報	23
	メディア掲載情報 / 編集後記	24

理事長・学長からのメッセージ vol.3

奈良医大はどのような大学を目指すべきか。皆さんのお考えをお聞かせ下さい。

理事長・学長 細井 裕司

私は、本学の将来を真剣に考え、この3年間、副学長（医学部長、病院長）、副理事長、理事とともに様々な新しい試みに取り組んで参りました。しかし、先頃、医学科学生を対象にしたアンケート調査によって、このような試みに反対という意見も少数ながらあることを知りました。そこで、今一度立ち止まってこの3年間を概観し、学内外の皆さんの意見を聞かせて頂ければと思います。

以下に3年間で行ってきた主な取り組みを挙げます。Aの項目は法律の改正や文科省等の指導に沿った改革、Bは奈良県との将来像策定会議による取り組み、Cは本学独自の取り組みです。AとBは本学の一存で変更することは難しい課題です。Cについては本学独自の政策ですから変更は可能です。皆さん方のご意見をAとBについても結構ですが、特にCについてお聞かせ頂き、今後の参考にさせて頂ければと考えています。

なお、ご意見をいただく場合は、直接お話しするのが一番よいと思っております。私は出張などがなければ朝7時～夜9時までではおりますので、皆さんのご都合がつく時間にお越し下さい。秘書（内線2375）に連絡いただきアポイントをとって下さいますようお願いいたします。また、E-mail (soumuka@naramed-u.ac.jp) やファックス (0744-25-7657) でも結構です。その場合は、後日さらに詳しくお話しを伺わせて頂くこともあろうかと思っておりますので、所属、氏名、電話番号を記入して頂けると大変有難いです。

皆さんと一緒に奈良医大の将来を考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

A. 法律の改正や文科省等の指導に沿った改革

1. ガバナンス改革

学校教育法の改正（平成26年6月27日公布、27年4月1日施行）、学校教育法施行規則等を改正する省令（文科省高等教育局長、文科省研究振興局長連名による平成26年8月29日付けの通知）等、文科省の指導に従って、学長のガバナンスを強化する学則の改定を行った。

2. 教養教育部門の独立

平成18年度大学機関別認証評価書、平成25年度大学機関別認証評価書に従って、医学科と看護学科で別個ではなく、医学部として統一された教養教育の体制を構築した。

B. 県で行ってきた奈良医大の将来像策定会議による取り組み

1. 大学の理念の確立とキャンパス整備の準備
2. 教育改革2015の制定、実行
3. シンボルマーク等の制定
4. 外部評価のための有識者委員会の設置

C. 本学独自の取り組み

1. 奈良医大発の日本改革モデルの推進（MBT、医学を基礎とするまちづくり、内閣官房のモデルケースに指定）
2. 学外機関との共同研究（けいはんなRC〔文科省の大型プロジェクト〕に参画。産業技術総合研究所、国立循環器病研究センター及びWHO等と連携）
3. 関西公私立医科大学・医学部連合の結成
4. 優秀な学生の確保（後期入試と地域枠を重視した入試の実施）
5. 高い臨床英語力の修得を目指した英語教育の推進（英語を母国語とする教授・教員の採用、海外英語研修の開始）
6. 大学院入学者の定員充足
7. 連携施設の設置（国内の各地に連携大学院・研究所などを設置〔国立循環器病研究センター内連携大学院等〕）
8. 実績に基づく講座研究費の配分方法を確立
9. 医師確保の新しい仕組みを創設（外科マスター、ドクターN、海外から優れた臨床家・教育者を招聘する制度、等）
10. 優秀な医師・研究医の育成、研究者への支援（海外や国内の著名な研究機関での長期の学生実習、学内共同研究への補助、科研費獲得支援、若手研究者・女性研究者への支援制度の拡充、大学院生の授業料補助制度の創設、等）
11. 看護学科の充実（在宅看護学領域の創設、講座・領域研究費の配分に医学科と共通の基準を導入、等）
12. 看護学科と附属病院看護部の連携の推進
13. 特定行為に係る看護師の研修制度（急性期コース）の設置
14. 学生生活の活性化、地域とのコミュニケーションの強化（大学祭〔白檀生祭〕を一部学外で開催）
15. 学生支援体制の充実（白衣授与式、入学式保護者懇談会を開始）
16. 寄付金制度の創設（ふるさと納税制度を利用した「未来への飛躍基金」の設立）
17. 職場環境の改善（ロイヤルホスト誘致、ローソン、ドトールコーヒー等大手業者によるサービスの充実、トイレなど設備の改善）
18. 奈良医大広報の充実（KCNテレビ〔ケーブルテレビ〕で奈良医大専属番組「おしえて！奈良医大」を開始）
19. 奈良医大一体化の工夫（学歌のリニューアルと普及活動）
20. 県との意思疎通の緊密化（月1回の知事との意見交換、等）

奈良県立医科大学は創立から70余年を経た今、第二の建学期を迎え、

本学は、今、教育・研究部門の新キャンパスへの全面移転と、現キャンパスでの附属病院施設の抜本的充実を図るという創立以来の大プロジェクトに取り組んでいます。

私は、これを単なる施設整備にとどまらず、新しい奈良県立医科大学を作り上げる機会、すなわち本学が次世紀に向かって飛躍を遂げるための基礎づくりにするべきであると考えています。

このため、キャンパス整備に先立ち、奈良県と共に平成26年から3年余りにわたって、新しいキャンパスで我々が目指すべきものは何なのか、本学の数十年先のあるべき姿について検討を重ねた結果、今般、その成果を「奈良県立医科大学の将来像」として取りまとめるに至りました。

検討の過程では、法人構成員各位からアンケート・インタビューにより多数のご意見・ご提案を頂戴し、役員がそれら全てに目を通して参考にさせていただきました。法人構成員全員が参画して、本学の将来のために知恵を絞っていただいた尽力の結晶がこの「奈良県立医科大学の将来像」であり、このような過程により本学の価値観・アイデンティティを明確にしたことは、極めて意義深いことであり、全国の大学に誇ることができる成果であると思います。

今後はこの将来像を現実のものとし、本学に関わる全ての方の期待に応えられるよう、将来像に掲げる理念、方針に則して全学一丸となって取り組んでいただきますよう、法人構成員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

「奈良県立医科大学の将来像」の概要

建学の精神

最高の医学と最善の医療をもって 地域の安心と社会の発展に貢献します

シンボルマーク

奈良県立医科大学のイニシャル「N」をモチーフにしたもので、二重の円弧は医学と看護学の支え合う関係を意味し、そこから伸びる葉形は医療人としての成長・未来への飛躍をイメージし、本学が発展していく様を象徴しています。



各分野の理念と方針

教育

理念 豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

方針① 良き医療人育成プログラムの実践

- ② 教員の教育能力開発と教育の質保証
- ③ 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進
- ④ 学習環境と教育環境の充実

研究

理念 研究の成果を患者への最善の医療に生かし奈良県民の健康増進を図るとともに、最先端の研究により医学の進歩に貢献します。

方針① 研究基本方針の明確化

- ② 研究推進体制の効率化と強化
- ③ 研究の外部評価の導入
- ④ 奈良県民の健康増進への貢献

診療

理念 患者と心が通い合う人間味あふれる医療人を育成し、地域との緊密な連携のもとで奈良県民を守る最終ディフェンスラインとして、安全で安心できる最善の医療を提供します。

方針① 奈良県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践

- ② 奈良県内基幹病院としての機能の充実
- ③ 地域医療機関との機能分担、緊密連携の推進
- ④ 各領域の担い手となる医療人の育成

法人運営

理念 最高の医学の追求、最善の医療の追求を使命として、互いに連携しながら自らの職務に誇りと情熱をもって取り組み、課題に対して自ら行動できる人材を確保・育成することで、教育・研究・診療の理念を実現し、発展し続ける法人運営を実践します。

方針① ガバナンス体制の確立

- ② 持続可能な経営基盤の確立
- ③ 働きがいのある職場づくり
- ④ 積極的な情報発信

最新かつ最高の教育・研究・診療を提供できる大学と病院に生まれ変わります

また、将来像の策定と並行して進めて参りましたキャンパス整備の検討について、新キャンパス・現キャンパス双方の整備イメージを作成いたしました。これは、現施設を基本としつつも、学生数を始めとする諸環境の変化、今後求められる新たな機能なども勘案して描いたものです。

新キャンパスは、歴史の香漂うこ樫原の地で、本学ならではの医学教育を实践する場にふさわしい姿として、藤原京をモチーフとしたゾーニング、デザインを取り入れることを想定しています。

現キャンパスは、附属病院南側への新駅を設置を想定し、現施設南側に新しいA病棟を整備するとともに、来院者の利便性向上のため敷地内に立体駐車場を整備することを想定し

ています。

これらは、あくまでも今後整備内容を具体化していくためのたたき台として、現時点での検討イメージをお示しするものですが、キャンパス整備を皆様に直接関わる眼前の課題として改めてご認識いただき、今後の検討にご参画いただく材料になればと考えております。

平成 29 年 4 月

理事長・学長 細井 裕司



両キャンパスの位置関係



南西からの俯瞰



南東からの俯瞰



大学本部棟から前庭、正面玄関方向を望む

平成29年度 入学式



式辞

学長 細井 裕司

本日、春爛漫の良き日に医学部医学科113名、同2年次編入学生2名、医学部看護学科85名、合計200名の晴れやかな入学生の皆さんを奈良県立医科大学に迎えることができるのは、私どもの大きな喜びとするところであり、入学生の皆さんに対し心から「おめでとう」と申し上げるとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。

また、入学する学生を今日まで慈しみ、支え、育ててこられた、ご列席のご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。

本日、ご多忙の中御臨席いただきました、

奈良県知事	荒井 正吾様
奈良県議会議長	川口 正志様
奈良県議会厚生委員会委員長	西川 均様
奈良県議会厚生委員会副委員長	小林 照代様
奈良県議会議員	森山 賀文様
奈良県議会議員	岡 史朗様
奈良県議会議員	亀田 忠彦様
奈良県医療政策部長	林 修一郎様
奈良県立医科大学医学部医学科同窓会会長	小味淵 智雄様
奈良県立医科大学医学部看護学科同窓会会長	植村 信子様

をはじめ、ご来賓の皆様並びに関係各位に対しまして厚く御礼を申し上げます。

奈良医大の現状と将来

まず最初に申しあげたいのは、皆さんは奈良医大の歴史上最も輝き、発展する時期に入学されたということです。この3年間奈良県と毎月行ってきた将来像策定会議において、建学の精神を新たに制定し、教育、研究、診療等における理念や方針を策定しました。これから、この理念にそって新キャンパスが整備され、現キャンパスと共に施設が充実していきます。皆さんが卒業し、医師や看護師として活躍するころには、全国の80大学医学部中、確固たる理念に裏打ちされた最も新しい設備をもった医科大学に生まれ変わります。



大学とは何か？

さて、大学とは何でしょうか。これから70年、80年以上続く一生の土台を築く場であると私は考えています。この土台のもとに卒業後それぞれの道に羽ばたいていくのです。どのように羽ばたけるか、つまりどのような充実した一生を送れるか

Interview

新入生インタビュー 1



医学科
花田 慎太郎さん(左)

不安なことも多いですが、勉強も頑張りつついろいろなことにも積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

医学科
藤岡 遼人さん(右)

単科大学で一学年の人数が他大学に比べて少ないので、縦・横のつながりを大切にしたいと思っています。部活もバイトもたくさんをしたいです。

は、この土台が堅固であるかどうかによって大きく左右されるといえるでしょう。

今日は、奈良医大が皆さんをしっかりと受けとめられる堅固な土台であることをお伝えしたいと思います。その理由の一つ目は、大学はもちろんのこと奈良県知事をはじめ奈良県が教育に熱心であることです。先般、全国の医科大学の模範となる教育方針の基本理念と具体的方針を示した「奈良県立医科大学教育改革2015」を県とともに策定しました。この基本理念に基づいて、奈良医大独自の教育プログラムを計画し、実行に移しています。

一例として、ネイティブスピーカーの主任教授による卓越した臨床英語教育、学生の海外派遣制度、研究を活発化するための大学院進学援助制度、国内外から臨床教育の指導医師を招聘する制度、診断力向上のためのドクターN（NHKのドクターGの奈良医大版、Nは奈良医大のN）、全国トップレベルの外科医に外科マスターの称号を与える制度などがあり、全学をあげて意欲的に取り組んでいます。

これらの教育への熱意は、卒業生にも評価されています。卒業後の臨床研修に奈良医大附属病院を希望する医師が多く、今年のマッチング率は100%で全国第1位となりました。看護学科の卒

業生についても、本学附属病院への就職が増加しています。

二つ目の理由は、奈良医大の学生の多様性です。近畿地方にある12の医学部・医学科の中で、本学は最大の地域枠を設けています。それと同時に最大の後期入試枠も設けています。また、医学科では前期入試、研究医養成コースへの編入制度、看護学科では推薦地域枠、一般地域枠など様々な選抜方法を取り入れており、多様な学生が集まっています。

これから始まる学生生活において、異なる考え方やバックグラウンドを持つ学生が互いを尊重し、切磋琢磨する事により新たな価値を見出すことができるでしょう。本日入学されたみなさんが、このような環境でよく学び、本学という土台にしっかりと足をつけて、大きく成長してほしいと思います。

奈良医大の教育方針

奈良医大の教育方針について述べたいと思います。本学では、多様な意見を尊重しながら、レベルの高い教育に照準を絞っていきたいと考えています。

一般的に優秀な医師や看護師はレベルの高いところに集まります。全国の80大学医学部を思い起こして下さい。レ

ベルの高い大学に、若い人が集まっています。優秀な医師や看護師は、自分を磨くためより高いところに行こうとするのです。本学では、教育改革を進め、より高いレベルを目指しています。

しかし、このような考えに皆が賛同しているわけではありません。実際に、先頃行った学長への意見、要望のアンケートでは、様々な意見がありました。例えば臨床英語については、「講義をもっと英語で行って欲しい。」（4年生）という肯定的なものから、「英語論文を読むのは大切だが、話す・聞く能力はそこ



Interview

新入生インタビュー 2



看護学科
増谷 琴菜さん(左)

1年生の時から、専門科目があるのでアルバイトとの両立ができるように頑張りたいです。4年間楽しい学校生活にしたいです。

看護学科
美澤 菜月さん(右)

新しい環境での生活に不安もたくさんありますが、勉強と部活の両立を目指して頑張りたいと思います。

平成29年度 入学式

まで必要でないと思う。」(1年生)という否定的なものもありました。その他の項目においても、新しい試みによってグローバルな大学にしてほしいという意見と、あまりいろいろなことは行わず、地域医療に特化した大学にしてほしいとの大きく2つの意見に分かれています。



このような中で、本学がレベルの高い教育を目指すのはなぜでしょうか。それは、地域に特化したレベルに照準を合わせるなら、世界を視野に入れた学生を育てることは困難ですが、世界を視野に入れたレベルの大学を目指すなら、地域に特化した医師を育てることも可能であるからです。目指す医師像は人によって様々ですが、高いレベルの教育が世界に通用する医師を生み出し、またそれが地域を主眼とする医師にも好影響を及ぼして、奈良県の医療レベルを高めることに貢献できます。

先頃、学生の海外派遣制度で研修を行った2年生の13名が3ヶ月間の研修を終え帰国してきました。Harvard Medical School, University of Michigan Medical School, University of Alberta などでの研修の感想を何人かの学生が送ってくれましたので紹介します。

「3ヶ月間全てが勉強で日本では経験できないことをたくさん経験することが出来ました。」「リサーチクラークシップの期間、様々な困難にも出会いましたが、本当に良い経験ができました。」などです。

これらの肯定的な感想は、経験した後に生まれたものです。1年生の時の判断が最後まで正しいとは限らず、経験を積んで後にわかることもあるでしょう。そのための準備として、本学が注力している制度を活用し、大いに学んでほしいと思います。その学びは、きっとみなさんの人生を豊かにすることでしょう。

おわりに

最後に皆さんへの希望を述べたいと思います。これから医学科にあっては6年間、看護学科にあっては4年間、奈良医大において「高いレベルに向かって努力する姿勢」で学び、「挑戦する人」になる礎を築いてください。奈良医大を土台として、卒業後は大きく飛躍してほしいと思います。本学は、奈良県と二人三脚で奈良医大飛躍のための改革を進めていきます。

今日は、ご入学、誠にありがとうございます。



Interview

新入生インタビュー 3



看護学科
中村 莉子さん

思いやりに溢れた立派な看護師になれるよう日々勉学に励みつつ、部活にアルバイト・遊びと充実した大学生活を送りたいです。



看護学科
左海 菜美さん

新しい環境にまだ慣れず不安でいっぱいですが、充実した大学生活を送りたいです。理想の看護師像を確立し、それに近づけられるよう勉学に励みたいです。

平成28年度 卒業式

式辞

学長 細井 裕司

今日のおき日、奈良県立医科大学医学科を卒業する109名、看護学科を卒業する86名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが長い学生生活を修了され、ここに学士(医学)、学士(看護学)の学位を得られましたことは誠にめでたく、心からお祝い申し上げます。

これは、何よりも皆さんの弛まぬ努力の結果であります。それと同時に、今日まで皆さんを慈しみ育ててこられた保護者の皆様方や、皆さんの人間形成や教育に御指導を賜った教員、並びに関係する皆様のお陰であり、このことに感謝の気持ちを持っていただきたいと思います。

また、本日は、公務ご多忙の中ご臨席くださいました

奈良県副知事

浪越 照雄様

奈良県議会議長

川口 正志様

奈良県議会厚生委員会副委員長

小林 照代様

奈良県医療政策部長

林 修一郎様

をはじめ、御来賓並びに関係各位に心から厚く御礼申し上げます。

A. 現状と将来認識

■ 世界の状況

本年1月1日の日経新聞の1面トップの見出しは「当たり前もうない」というものでした。当たり前と考えていた常識が崩れ去る、と記事は続くのですが、技術の進歩やグローバル化の奔流がそうさせるのです。いよいよ皆さんもそのような世界の中の一角に乗り出します。イギリスがEUを離脱し、アメリカにト

ランプ大統領が誕生したその時代に皆さんは船出します。

■ 身近な当たり前

皆さんにとって身近な当たり前に「医師不足」「看護師不足」があります。この「当たり前」は皆さんが医師や看護師として活躍する一生を通じて「当たり前」であり続けるのでしょうか。

厚生労働統計一覧等から見ますと、医師の総数は、1950年の7万6446人から年々増加し続け、2012年には30万人を超えました。2014年では31万1205人と64年間で4倍以上になっています。人口10万人当たりの医師数は1950年には91.9人と100人を下回っていましたが、2000年には200人を超えています。そして、2014年には244.9人となって240人を上回りました。

看護師はどうでしょうか。看護師の総数は、1979年で24万6083人でしたが、2012年では106万7760人と大幅に増加しました。准看護師、保健師、助産師を加えた看護職員全体では、1997年では106万5306人でしたが、2012年では153万7813人と増加しています。最近の10年間を平均すると離職者等も勘案して毎年約3万人増加しています。

■ 医師、看護師の将来予測

これらの過去のデータから、2032年までに医師数は34万人を超え、人口10万人当たりでは300人を超えることが確実です。看護師も同様に増加の一途をたどるでしょう。

つまり、皆さんが活躍する期間において、医師過剰、看護師過剰の時期がくるかもしれないということです。特に、皆さんが最も脂の乗りきった40歳代から50歳代にかけて、個々の力



平成28年度 卒業式

量が問われる時代になるのではないのでしょうか。皆さんの人生を豊かにするために、これらの現状認識と将来予測を生かして取り組んでいってほしいと思います。

B. 将来への対処

今皆さんの一生を通じて考えた時、厳しい予測を述べましたが、私はここに卒業式を迎えられた皆さんはどのような時代になっても人生を切り開いていけると信じています。その理由として3つ上げたいと思います。

まず第1の理由は、皆さんが真摯に学んだ人であるということです。本学で学んだ知識と技量はこれからの皆さんが飛躍していく上での基礎となります。また、クラブ活動を含めた種々の分野における経験や友人が心の支えになってくれることでしょう。

そして第2の理由は、皆さんが学んだ母校奈良医大が将来に向かって発展していく医科大学であることです。大学には、発展する大学と衰退していく大学があり、奈良医大は前者であるといえます。入試改革により優秀な人材が集まり、その優秀な人材を育てる教育改革を行いました。奈良県立医科大学教育改革2015です。また、現在新キャンパスの開設と、現キャンパスの整備計画を進めています。キャンパスの新設は、奈良医大

飛躍のまたとない機会です。知事をはじめ奈良県と月2回の面談など緊密にコミュニケーションをとりながら計画を進めており、本学は10年後には最新の設備を持つ医科大学に生まれ変わります。本学は、みなさんが必要なときにいつでも頼りになれる大樹のような存在になるでしょう。

最後の第3の理由は、世の中が皆さんを必要としているということです。さきほど医師、看護師過剰の可能性についてふれましたが、医療職が将来、より多くの人材を必要とする職種であることは間違いありません。世の中は超高齢社会を迎えています。また、医学の進歩は日進月歩です。このような時代において、医療職の増加は世の中の要求であるといえます。増加していく医療職の中においても、日々研鑽を積み、世の中で抜きん出た人材になってほしいと願っています。

C. 贈る言葉

最後に皆さんにことばを贈りたいと思います。それは、「心の中にいつも母校奈良医大がある」です。奈良医大で学んだ知識、技能が皆さんの頭に、体に染み込んでいることでしょう。そして、奈良医大で得た友人、先輩、後輩、そして恩師が一生を通じて皆さんの支えとなることを確信しています。

本日は誠にありがとうございます。



新たなる旅立ち (医学部卒業式 大学院修了式 平成 29 年 3 月 15 日)

今年も237名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。(237名：医学科109名、看護学科86名、大学院医学研究科博士課程19名、同修士課程12名、看護学研究科修士課程11名)
また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。(敬称略)

●奈良県立医科大学学長賞

医学科6年間または看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を収めた者

医学科：^{しまづ よしひと}嶋津 義人 看護学科：^{とおみや りか}遠宮 里佳

●医学科同窓会^{いつかし}厳檀賞、看護学科同窓会^{はなかし}華檀賞

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者（ヒーローオブザクラス）
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳檀賞：^{まつだ あやな おおにし りな かわい あさひと}松田 紋奈、大西 里奈、川合 章人

華檀賞：^{さかのうえ あつこ おかざき}坂上 敦子、岡崎 かおり



学長賞受賞者

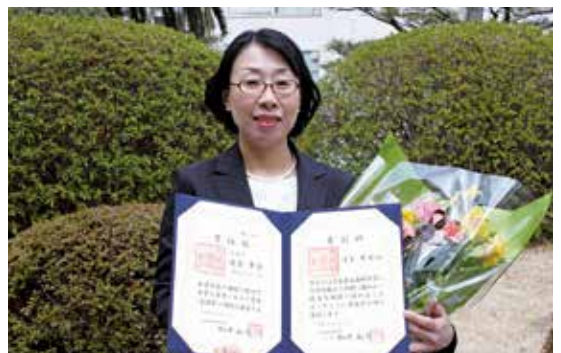


医学科 嶋津 義人

この度は、学長賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。

奈良県立医科大学での学生生活は日々の興味深い講義や実習で医学への知的探求心が尽きることはありませんでした。その結果、6年間ひたむきに学業に取り組む生活を送ることができ、今回の受賞につながったと思います。大学生活をサポートして頂いた教職員の皆様方、先輩、同級生、後輩、そして家族に心より感謝申し上げます。

4月から医師として新たな生活が始まります。奈良県の医療に貢献できる良き医療人になれるよう、より一層、精進する所存です。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



看護学科 遠宮 里佳

この度は学長賞を頂き、光栄に存じます。ご指導を賜りました諸先生方、共に学んだ同級生、全力で応援してくれた家族に心より感謝いたします。

42歳で入学し不安いっぱいでしたが、同級生はご両親とほぼ同年代の私を自然に受け入れてくれました。学業に専念できたのは、仲間にもまれ、恵まれた環境に身を置くことができたためです。

今後は感謝の気持ちを忘れず、この御恩を患者様や周囲の方々にお返しできるような努めてまいります。

退任の挨拶



総務・経営担当理事
事務局長 中川 裕介

この度、任期途中ですが、3月末日をもって退任し、奈良県庁に戻ることになりました。昨年4月、本学に赴任し、1年間の短い期間でしたが、楽しく仕事をさせていただきました。

医大に関わる仕事をさせていただいたのは、前職(奈良県知事公室審議官〔医大・周辺まちづくり担当〕)を含めて、通算4年間となりました。

この4年を振り返りますと、まず、「医大の将来像策定」と「医大の両キャンパス整備イメージパス」です。これらの作成過程で、教職員、学生のみならず、3回のアンケート調査にご協力いただきました。

次に、第2期中期計画の着実な達成です。外部の評価委員から、高い評価をいただいています。第一線で頑張っていたというみなさまのおかげだと、感謝しています。

細井理事長・学長は、「医大の飛躍の時期」と位置づけられ、医大の存在感を高めるため、積極的な法人運営、大学運営を行っておられます。

知事は、このような医大に大いに期待されていると共に、意欲的に医大(大学及び附属病院)整備に取り組んでいただいています。

医大のこのような時期に、みなさまと一緒に仕事をさせていただいたことは、私の人生にとって大変に意義深いことです。

しかし、医大の飛躍、ビッグプロジェクトは始まったばかりです。教職員のみならずが丸となって、着実に前進されることをご祈念いたします。

最後になりましたが、これまでみなさまからいただきましたご厚情に、心からお礼申し上げます。



病理病態学
教授 小西 登

本年3月末をもちまして退任となりましたが、平成12年に病理学第二講座の教授に就任して17年間、振り返ってみますとあっという間でした。基礎医学に身を置く教官として、教育・研究の活性化に尽力したつもりではありますが、これもひとえに病理病態学教室を支えていただきました本学教職員の方々のお陰とっております。篤くお礼申し上げますとともに、奈良県立医科大学のより一層のご発展を祈念いたします。



内科学第二
教授 木村 弘

このたび平成29年3月末をもちまして奈良県立医科大学内科学第二講座の教授を定年退任いたします。振り返ると、49歳で千葉大学医学部から本学に着任したのが昨日のこのように思え、あっという間の16年間でした。

留まることのない医療の進歩に立ち向かいながら、そして一方では研究に勤しみ、学会の準備に臨みながら、懸命に患者さんに接する教室員の姿を思い出すたびに、心暖まる思いとともに感謝の気持ちがこみ上げてきます。この奈良の地での、皆さんに助けられながらの16年間の大学生活は本当に思い出深いものでした。ありがとうございました。



神経内科学
教授 上野 聡

平成29年3月末をもって神経内科学教授を退任しました。17年間の在職期間において、歴代の学長、病院長をはじめ、大学、同窓会、そして県関係の皆様のご支援に感謝いたします。

多くの師と素晴らしい仲間めぐまれ、本学卒業生はじめての神経内科専門医として母校教室を主宰できましたことは望外の喜びでした。教室員には長きにわたって教室の発展の為に最善を尽くしていただいたことに心からお礼申しあげます。そして神経内科学教室に関わったすべての皆様のご多幸と、奈良県立医科大学の一層の発展をお祈りいたします。



老年看護学
教授 水主 千鶴子

平成25年4月から医学部看護学科でお世話になり、4年が経過し教育・研究活動を終えることになりました。研究については、認知症予防や介護予防に取り組み、充実した日々を過ごすことができました。今日、こうして定

年の日を迎えられたのは、細井学長、車谷学部長、飯田学科長、澤見准教授、片畑助教、そして教職員の皆様のおかげです。4年間、本当にありがとうございました。今後の皆様方のご健勝とますますのご活躍を心から祈念しております。

就任の挨拶



精神看護学
教授 軸丸 清子

この度3月末で定年を迎え、教授を退任いたしました。平成23年の就任以来多くの方々を支えていただき、教授、看護教育部長、看護学科長と各2年間、計6年間の職務を全うできましたことを心より感謝申し上げます。

私が第一に心がけてきましたのは、学生や教職員が持ちうる力を十分に発揮できるよう安全・安心感のある人的／物理的環境の調整に努めることでした。また地域貢献におきましても看護職の方、地域住民の方々に対して私が人的環境となり、その機会(場)を提供することでした。物理的環境は一度調整するとよい状態が暫く続きますが、人的環境は人と人との関係性ですので恒常性を保つことが難しく、不断の努力を要します。幸いなことに強い信頼で結ばれた同志に恵まれ、その方々との強い絆に支えられ何とかその職務を遂行できたのではないかと考えています。今後は、この同志が継続して発展させていってくださることと信じています。

これまでお世話になりました皆様へ心よりお礼を申し上げますとともに、奈良医大の益々の発展を祈念いたします。



ラジオアイソトープ実験施設
研究教授 森 俊雄

本学には平成2年秋から26年半、放射線取扱主任者としてお世話になりました。基礎医学研究を幅広く支援すること、放射線障害防止法を守ってもらうこと、共同研究で自身の研究を発展させることを目指してきました。ラジオアイソトープ実験の全盛期と重なったこと、平成17年度放射線安全管理功労者文部科学大臣賞などにより目的の一部は達成できたと考えます。ご支援いただいた多くの先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



総務・経営担当理事
事務局長 杉山 孝

このたび、4月1日付けで、中川前理事の後任として、上記の職を拝命いたしました。

奈良医大には2度目の勤務となります。平成14年から平成20年にかけて、丁度、独法化の前後、一つの変革期に総務課で仕事をさせていただきました。

4月に着任し、本学が、今、当時とは比べものにならない非常に大きな、かつ、急激な変革の中にあると感じています。

学内関係者だけでなく、法人の設置者である奈良県とも真剣な議論を重ね、本学の存在意義とも言うべき「建学の精神」まで遡った議論を経て「将来像」が策定されました。また、それを具現化するための第一歩として、新キャンパスへの移転という、新たなステージに進んでいくこととなります。

このような飛躍の時に一緒に仕事をさせていただくことは、大変、名誉なことであると思うと同時に、責任の重さを痛感しているところです。

「将来像」の実現に向け、精一杯、努力いたしますので、ご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



疫学・予防医学
教授 佐伯 圭吾

平成29年4月1日に、疫学・予防医学講座(旧地域健康医学)の教授に着任いたしました。当講座では一般住民を対象とした大規模コホート研究から、実生活下の温度や光曝露が、生体リズムを介して長期的な健康に及ぼす影響を明らかにし、環境制御による疾病予防をめざします。また教育面では医学知見を、研究デザインと分析方法の観点から正しく理解し、適切に臨床応用できる医師を養成するために尽力します。みなさまのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



老年看護学
教授 澤見 一枝

この春、4月1日付で老年看護学教授を拝命致しました。この度、定年退官された教授の後を引き継がせていただきましたが、これまでは前教授と共に、学生・院生の教育や、地域の健康づくり活動を行って参りました。前教授のように学生たちに慕われ、先駆的な研究活動を推進していけるように、専心努力する所存でございます。

諸先輩諸先生の偉大な功績を受け継ぎ、充実した教育環境で活動できる喜びは申し上げるまでもございませんが、同時に、その責務の重大さに身の引き締まる思いでございます。

今後は、皆様方のご支援をいただいで責務を全うしたいと存じますので、何卒ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

平成29年度で5年目を迎える第2期中期目標の確実な達成、「医大の将来像策定会議」における議論を踏まえた「施設整備基本構想」の策定、E病棟の供用開始に伴う経費の増などの法人が直面する課題に対応するため、中期計画の遂行、キャンパス整備検討に必要な予算について、県等からの支援を活用し、必要な予算を確保するとともに、収入確保や経費削減、投資効果の検証など経営改善策の推進に主眼をおいた予算編成を行いました。

予算規模については、附属病院収入の増、それに伴う診療経費の増、人件費の増などが見込まれますが、E病棟整備の第2期工事が完了し、施設整備経費が大幅に減少するため、平成28年度の約480億円と比較しておよそ20億円減の462億円となりました。

平成29年度の主な取り組みとして、「奈良県立医科大学教育改革2015」や「重点研究2016推進計画」の本格実施、県全体の医療安全推進体制への参画など「医大の将来像策定会議」において議論された内容を実施していきます。

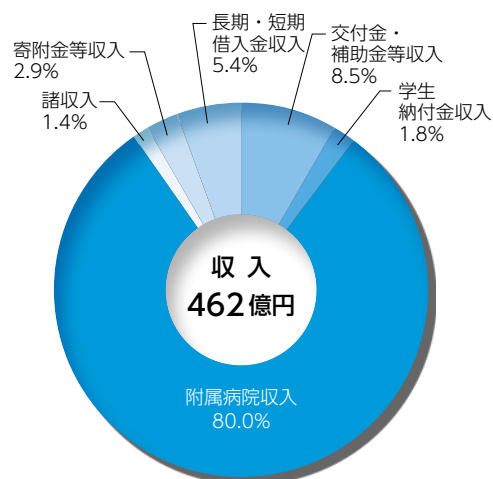
また、「MBT構想」の実現に向けたMBT研究所の運営や、キャンパス移転に伴う施設整備など、まちづくりに向けた取組も引き続き行います。

さらに、新しく制定したシンボルマーク等を活用し、法人化10周年の節目に改めてガバナンス体制を強化することで、奈良県立医科大学の未来への飛躍に向けて取り組んでいきます。

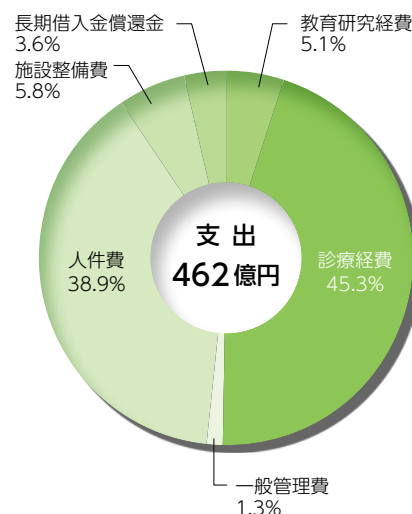
法人の更なる発展のため、中期計画の円滑な遂行、効率的な法人経営の推進について、教職員のみならずには、それぞれの分野でのご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

平成29年度予算の内容

収入	項目	予算額	構成比
収入	法人が自ら得た収入（自己収入）	384.4億円	83.2%
	附属病院の診療報酬等（附属病院収入）	369.6億円	80.0%
	学生が納付した収入（授業料・入学金・入学検定料）	8.3億円	1.8%
	その他の収入（諸収入）	6.5億円	1.4%
	他機関等からの支援（交付金・補助金）	39.3億円	8.5%
	県からの支援（運営費交付金等）	25.0億円	5.4%
	国等からの支援（補助金収入）	14.3億円	3.1%
	職員が集めた収入（受託研究・寄附金等収入）	13.5億円	2.9%
	借金の借入（長期借入金等収入）	24.7億円	5.4%
	収入計	461.9億円	100.0%



支出	項目	予算額	構成比
支出	義務的に支払う必要のある経費（人件費、償還金）	196.1億円	42.5%
	職員への給与の支払い（職員給与）	175.3億円	38.0%
	退職手当の支払い（退職手当）	4.3億円	0.9%
	借金の返済（長期借入金償還金）	16.5億円	3.6%
	業務の運営に必要な経費（業務費等）	238.9億円	51.7%
	大学での教育研究に必要な経費（教育研究経費）	23.5億円	5.1%
	附属病院での診療に必要な経費（診療経費）	209.4億円	45.3%
	法人の運営全般に必要な経費（一般管理費）	6.0億円	1.3%
	施設整備や医療機器購入経費（施設整備費）	26.9億円	5.8%
	支出計	461.9億円	100.0%



平成 29 年度予算の主要事業・新規事業

地域貢献

適切な医師派遣システムの確立、学生の県内就職率の向上

- 県立医大医師派遣センターの運営
- 県費奨学生配置センターの運営
26,900千円 (H28 22,200千円)
医師配置の一元的な運営体制のさらなる整備、県費奨学生の地域配置などの支援
- 在宅医療看護人材育成支援奨学金
8,400千円 (H28 6,000千円)
- 新在宅看護特別教育プログラム運営経費 1,700千円
県内における在宅看護を牽引する人材育成のため、一定の要件を満たす者に奨学金を貸与し、特別教育プログラムを実施
- 新県全体の医療安全推進体制への参画
新たに設置される「(仮称)医療安全推進センター」の運営に協力するとともに、「(仮称)医療安全情報検討委員会」に参画

教育・研究部門

学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保、研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実

- 良き医療人育成推進事業 53,400千円 (H28 40,300千円)
豊かな人間性に基づく高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、最善の医療提供を行う強い意志を持った医療人の育成
- 新Student lab運営経費 9,500千円
- 新学生関連助成事業 36,700千円
- 学生自主研究活動、海外実習等の支援
7,000千円 (H28 2,000千円)
学生の学会参加支援等の自主研究の支援を目的とした体制整備、国内外での実習にかかる費用の一部助成
- 新重点研究推進事業 15,000千円
血栓止血の制御に関する研究および画像下での低侵襲医療(IVR)に関する研究

診療部門

法人の将来を見据えた大規模な投資、患者サービスの向上、病院機能の充実

- 新外国人患者受入体制整備事業 4,200千円
外国人患者の受入体制を整備（多言語対応ツール導入、院内文書・案内の多言語化）
- 新研修医確保事業 10,600千円
優秀な臨床研修医を多数確保するため、魅力ある研修プログラムを実施
- 総合医療情報システム更新準備事業 17,500千円(H28 5,000千円)
平成30年度に予定しているシステム更新に向けた準備支援委託経費等
- 新産科等エステサービス提供事業 6,300千円
産科の個室を利用する患者に対してエステサービスを提供し、患者満足の上をを図る

まちづくり

医科大学を中心としたまちづくりの推進

- 新MBT研究所運営事業 36,000千円
MBTの認知度向上、他機関とのさらなる連携による研究の深化、ICTを活用した退院支援・見守り・地域包括ケアシステムへの展開やサービス創出を行う拠点としての研究所運営費
- 新将来像推進事業 3,500千円
「医大の目指すべき将来像」の内容を学内外に徹底周知し、実現に向けた取組の進展を図るための経費

管理部門

法人組織の円滑な運営・福利厚生充実、事務の合理化の推進

- 新法人化10周年記念事業 4,000千円
法人化10周年の節目に、奈良県立医科大学の更なる飛躍へ向かう姿を示すための式典を開催
- 新法人経営プロジェクト 4,300千円
持続可能な経営基盤を確立するため、経営指標データの一元管理およびモニタリングを実施
- 新シンボルマークの活用 11,600千円
新たに制定したシンボルマークを配した法人旗や職員証・学生証等を作成し、職員および学生の帰属意識・愛学精神を醸成

1 .MBTの意義

MBTにより、奈良医大が少子高齢社会のまちづくり、産業創生、地方創生を主導することで、日本における奈良医大の存在感を高めることができます。また、製薬企業から各教室への寄付金の減少はすでに始まっており、奈良医大が今後活力をもって活動するためには、製薬企業以外からも含めて広く民間活力（資金と人材）を奈良医大に導入する必要があります。MBTにはすでに80社を超える民間企業が参加しており、現在増加中です。これらの企業と共同研究を行うことにより、奈良医大のアクティビティが高まり、単に医療を行う以上に社会に貢献することができます。

現時点でMBTコンソーシアムに参加している企業（企業名の公開を承諾いただいた企業）を以下に示します。

iTest、アズマ、アペックス、アポプラスステーション、イムラ、イムラ封筒、ヴァイタル・インフォメーション、エクスレイヤー、N's planning、MS&AD基礎研究所、オーイーエム、大阪ガス、岡伸、奥村組、関西電力、北関東総合警備保障、キリン、近鉄ケーブルネットワーク、きんでん奈良支店、グランソール免疫研究所、KDDI、健康都市デザイン研究所、小山、崎山組、佐藤薬品工業、産業経済新聞社大阪本社、サンロード、三和澱粉工業、JRS、JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント、資生堂、昭和西川、新生、全国地域生活支援機構、損害保険ジャパン日本興亜、大和ガス、大和ハウス工業総合技術研究所、タカゾノテクノロジー、タカトリ、ツムラ、テクリコ、テルモ、東急病院、ドクターネット、凸版印刷、奈良精工、奈良友誼会病院、南都銀行橿原支店、西井会、西の京病院、日本タクティールタッチ協会、日本ベリンガーインゲルハイム、日本無線、日本ユニシス、ニューロン ネットワーク、パシフィックコンサルタンツ、ひばりラボ、ヒューテック、弘済会、不二精機、富士通、船井電機、プロライト、ヘルスグリッド、ホシデン、松田電気工業、まつのえ、丸一鋼管、みずほ銀行、三井住友銀行、ミッテ・インターナショナル、村田製作所、明豊ファシリティアワークス、メディケア・リン、モード、モード・ユニット工房、ヤマト運輸奈良主管支店、ユアサM&B、ユニオンツール、ライブビジネスウェザー、楽研、リーズンホワイ、ロート製薬、ワタキューセイモア近畿支店 (50音順)

2. MBT普及の活動

(1) ヘルスケア&スポーツ 街づくりEXPO 2017

平成29年3月8日から10日まで東京国際展示場「東京ビッグサイト」において、「ヘルスケア&スポーツ 街づくりEXPO 2017」が開催されました。本イベントは社会の変化に対応したスポーツによる街づくりや医学を基礎とする街づくり、健康にまつわるニーズを展示や関連セミナーで発信するもので、約3万人の来場者がありました。奈良県立医科大学MBT研究所、MBTコンソーシアムは期間を通して展示を行うとともに、3月9日には細

井学長、梅田研究教授が「医学を基礎とするまちづくり“MBT”次なる一手」と題して講演を行いました。



講演する細井学長



MBT関連展示ブース群

(2) 第1回 関西公立私立医科大学・医学部連合シンポジウム

平成29年2月6日、大阪大学中之島センターにおいて「関西公立私立医科大学・医学部連合」がシンポジウムを開催しました。関西公立私立医科大学・医学部連合とWHO健康開発総合研究センターは、保健医療政策の共同研究を進めています。WHOアレックス・ロス所長、AMED末松理事長、関西の8医科系大学の学長・医学部長等が参加し、「一世界に貢献する最先端の健康医療先進国・日本へー 関西公立私立医科大学・医学部連合8大学の先端研究、WHOとの共同研究への期待」と題して、講演、先端研究発表、パネルディスカッション、8大学の教授陣と企業との個別意見交換会、交流会が行われました。WHOとの共同研究において、奈良医大は「高齢社会における高性能住居、健康まちづくり」と「アシスティブテクノロジー」を担当しております。



8大学学長医学部長によるパネルディスカッション

(3) けいはんなリサーチコンプレックス (RC) オープニングシンポジウム

平成29年3月27日に、MBTコンソーシアム後援で、けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK) において、けいはんなRCオープニングシンポジウムが開催されました。けいはんなRCは細井学長がオーガナイザーを務めていること、MBTが出口戦略となっていること、本学のMBT関連課題が盛り込まれているなどMBTと深く関連した事業です。当日細井学長が開会挨拶を行い、430名以上の参加者がありました。本シンポジウムでは、RCが進める「超快適」スマート社会を目指す異分野融合研究開発・人材育成・事業化推進の活動を発信するとともに、イスラエルから講師を招き、注目されているイスラエルのエコシステムが如何に創られたかを学び、米国ニューヨークのアクセラレータとのグローバル連携など、新たなビジネスチャンス、ネットワークづくりの場を提供しました。細井学長開会挨拶



雑誌だけでなく、本も電子で。～電子ブックのご紹介～

学術雑誌の主流がプリント版からオンライン版へと移行して久しくなりました。JAMAやLANCETといったメジャー誌から各専門領域のコアジャーナルまで多くのジャーナルはオンラインで見られます。普段から最新の論文をオンラインでチェックしているという方も多いのではないのでしょうか。では、学術書についてはどうでしょう。近年は学術書についてもオンライン化が進んでおり、図書館でも購入しています。今回は、電子ジャーナルのようにオンラインで見られる電子ブックをご紹介します。

電子ブックは学内LAN経由でしたら図書館のPCでなくともご覧いただけます。図書館ホームページをご覧ください。画面上部の「電子ブック」というタブをクリックすると、タイトルや著者名から電子ブックを探すページが現れます。

読みたい本が見つかったら、そのタイトルをクリックします。「フルテキストを見る」から個々の電子ブックのページに入れます。現在提供元は3つあり、「Maruzen eBook Library」と「Medical*Online E-Books Library」では和書を、「ProQuest」では洋書をご覧いただけます。ここでは貸出の多い本を含む和書の提供元をご紹介します。洋書は冊数が多い(約7000冊)ため、後述の「所蔵資料検索」からお探しください。

まず、「Maruzen eBook Library」です。こちらでは「内科学(朝倉書店)」、「内科学書(中山書店)」、「新・病態生理でできたシリーズ(医学教育出版社)」、「国試マニュアル100%シリーズ(医学教育出版社)」、「写真でわかるシリーズ(インターメディカ)」、「脳神経外科学(金芳堂)」などをご覧いただけます。「閲覧」をクリックすると表紙画像が表示され、画面上部のページ検索窓からページを移動するほか、左側の目次見出しから各章に飛ぶこともできます。最大60ページまで印刷やダウンロード可能です。「閲覧終了」をクリックしてログアウトします。



Maruzen eBook Library

次に「Medical*Online E-Books Library」です。「口腔外科学(金芳堂)」やオペネーシング増刊、消化器外科ナーシング増刊(メディカ出版)などをご覧いただけます。「閲覧(本を読む)」から入ります。ページ内に書き込みや付箋を貼ることができます。見開きページのみ印刷可能です。ページを閉じると数分後に自動的にログアウトされます。



Medical*Online E-Books Library

この二つはどちらも電子ブックを提供して

いますが、それぞれに特徴があります。両者の違いをまとめました。

	Maruzen eBook Library	Medical*Online Ebooks Library
閲覧終了時	「閲覧終了」をクリック	ブラウザを閉じる
目次	左側に出ている	折りたたみできる
印刷	最大60ページまで	見開きページのみ
ダウンロード	最大60ページまで	できない
書き込み	できない	できる
参考文献リンク	なし	メディカルオンライン収載誌へのリンクあり

両者の違いを知ったところで、次はそれぞれどのような本が見られるのか、一覧の表示方法をご説明します。図書館トップページ > オンラインリソース > 出版社サイトと進みます。「Maruzen eBook Library」では、サイトに入り、「購読契約タイトル一覧」をクリックすると一覧が表示されます。「Medical*Online Ebooks Library」では、「メディカルオンライン」サイトに入り、左から3番目の「電子書籍」のタブをクリックし、一番左の「契約書籍一覧」からタイトル、分野などの項目ごとを一覧を確認できます。このように、出版社サイトからも個々の電子ブックをご覧いただけます。

また、電子ブックは「所蔵資料検索」からもご覧いただけます。資料を検索していて書名の頭にCDのようなマークが出てくるものは電子ブックです。さらに「所蔵資料検索」では、検索対象を電子ブックに限定することができます。「所蔵資料検索」画面上部の「検索対象」をクリックし、「E-BOOK」にチェックを入れ「検索開始」をクリックすると、電子ブックの一覧が表示されます。見たい電子ブックの書名をクリックし、詳細表示画面下方、「蔵書情報」右下の「参照URL」をクリックすると、電子ブックのページが表示されます。

〈「検索対象」を「E-BOOK」に限定〉



〈「所蔵資料検索」でEBOOK検索時に出るマーク〉



〈詳細表示画面下方「蔵書情報」の「参照URL」をクリック〉



学内ではまだまだ知られていませんが、実は電子ブックも多々あります。図書館では、キャンパス移転を視野に入れて電子ブックの充実にも力を入れています。電子ジャーナルと同じように、オンラインで使って便利な電子ブック、ぜひご活用ください。探し方がわからないときは図書館までお問合せください。

2.2 次世代医療システム産業化フォーラム2016に参加しました

神戸商工会議所神商ホールにおいて、「次世代医療システム産業化フォーラム2016」が開催されました。当日は、生命システム医科学分野脳神経システム医科学の坪井昭夫教授が、「嗅覚を用いたバイオセンサーの開発」と題し、参加企業に対しプレゼンを行い、名刺交換等、活発な産学官交流を行いました。今後、これらの企業等とマッチングが生まれることを期待しています。



講演中の坪井教授

2.6 ヒトゲノム・遺伝子解析研究研修会を開催しました

京都女子大学現代社会学部教授 霜田求先生を講師にお迎えし、「先端医療をめぐる倫理 ー遺伝子検査ビジネスを中心にー」と題して、最近のヒトゲノム遺伝子解析を巡る社会環境などについて熱心にお話しいただきました。



講演中の霜田先生

2.11 大和漢方医学薬学セミナーを開催しました

大和漢方医学薬学センターの三谷和男特任教授より「漢方の四診を究める」と題し、実技指導スタイルのセミナーを開催し、当日は、本学附属病院のほか県内外の医療機関の先生方が受講されました。受講の先生からの症例報告や質疑もあり講師の三谷先生や受講の先生方も参加され、診療法や漢方処方など熱心な質疑応答が交わされました。



講義中の三谷特任教授

2.13 創薬シーズ事業化コンペティションでシーズのプレゼンを行いました

グランフロント大阪にて、大阪府などの6団体が開催した創薬シーズ事業化コンペティションで、耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原紘教授が「耳鳴の可視化により耳鳴の創薬を目指す」、生化学の高澤伸教授が「REG遺伝子発現調節物質によるがんの新しい治療法開発」と題しプレゼンを行い、ベンチャーキャピタル等と活発な質疑応答がされるなど、シーズの事業化に向け意見が交わされました。



プレゼンを行う高澤教授(左)、北原教授(右)

2.13~21 チェンマイ大学との交流

本学とタイのチェンマイ大学との間で平成8年に締結された学術交流協定に基づき、18回目となる交換留学を実施しました。

平成29年2月13日から21日まで、チェンマイ大学医学部4年生の学生4名が来学し、第一内科学、第二内科学、第三内科学、消化器・総合外科学、胸部・心臓血管外科学、整形外科学、産婦人科学、放射線医学、救急医学の9教室で研修を行いました。また、本学の学生とも大いに親睦を深めました。関係教室の先生や職員の方々には、ご協力深く感謝します。

また、本学からは3月25日～4月2日の日程で、医学科6年生3名、5年生1名がチェンマイ大学を訪れ、現地の医療・医学事情等について研修を行いました。



2.15 2.21 研究倫理教育研修会を開催しました

研究倫理教育の一環として、平成29年2月15日、21日に研修会を開催し、車谷教育・研究担当理事を講師に、研究倫理に関して、研究不正はなぜ起こるのか、また、どうやって防止すればよいのかなどについてお話しいただきました。



科学研究費助成事業に関しては、研究代表者及び研究分担者は研究倫理教育を受講することが科研費交付の要件とされています。

2.16 認知症対応力向上研修を 2.17 開催しました

平成29年2月16日・17日、厳櫃会館大ホールにおいて、平成28年度 認知症疾患医療センター認知症対応力向上研修を開催しました。研修会では県内の認知症の医療・ケアの従事者を対象にセンター担当医や看護師等から認知症全般の知識やケアの講義・事例検討を行いました。認知症疾患医療センターでは、今後も研修会を継続し認知症に対する保健医療水準の向上を図るとともに、連携の拠点機能としての役割を果たしていきたいと思っております。



3.16 ISO15189の認定を取得しました

平成29年3月16日、当院の中央臨床検査部・輸血部・病院病理部・総合画像診断センターはISO15189を取得いたしました。

ISO15189とは、臨床検査を実施する臨床検査室の技術能力を決定する手段の一つであり、日本適合性認定協会が国際規格に基づき、検査室を審査し承認を決定します。認定を取得している当院の検査データは世界に通用する正確なもので、今後臨床研究中核病院の取得には欠かせない資格です。

このISO認定取得にあたり、理事長をはじめ、病院長・病院各課・大学各課の協力を得て認定を取得することができました。検査部だけで取得出来るものではありません。認定書は大学・附属病院の皆さんのものだと思っております。

今後も認定を維持管理し患者さんのために、この認定に恥じない正確なデータを提供し続けていく所存です。



認定式での集合写真

3.17 京都大学と大学院修士課程の 相互単位互換協定を締結しました

この度、本学と京都大学は大学院修士課程の相互単位互換協定を締結しました。具体的には、奈良県立医科大学大学院医学研究科(医療教育学)と京都大学大学院教育学研究科(教育政



策形成論Ⅱ)の単位互換になります。このことにより、本学の医療教育に教育学の視点を幅広く取り入れ、医学教育の充実発展に資することを期待しています。

3.18 春の「すいみんの日」 市民公開講座を開催しました

本学精神医学講座では、平成29年3月18日東大寺総合文化センター金鐘ホールにて「すいみんの日」市民公開講座2017奈良を共催しました。講師には、医療法人杏和会・阪南病院院長の黒田健治先生と大阪薬科大学薬物治療学研究室教授の松村人志先生、慶応義塾大学精神・神経科学教室教授の三村将先生をお招きしました。県内の一般市民を対象に、体内時計に関する最新の知見や、睡眠障害と精神疾患・メンタルヘルスとの関連などについてお話いただき、3連休の初日ではありましたが、参加者は153名と大変盛況に終わることができました。



3.19 奈良県ドクターヘリ運航開始式 を開催しました

平成29年3月21日から奈良県で初めてドクターヘリが運航されます。それに先立ち3月19日、南奈良総合医療センターで運航開始式が開催されました。

式では主催者として荒井知事・細井理事長が挨拶を行い、多くの来賓からも祝辞をいただきました。その後、ヘリポートに場所を変え、華々しくテープカットを行いました。引き続き内覧会やデモフライトを行い、運航開始式を無事終わりました。



Campus News

4.4 法人のシンボルマーク・イメージキャラクターを制定しました

P 4・5でご紹介しましたように今般「奈良県立医科大学の将来像」を策定しました。その将来像を実現させるためには、法人関係者の法人に対する帰属意識や愛学精神を醸成させることが必要不可欠であります。その方策の一つとしてこの度、全国からの公募によりシンボルマークとイメージキャラクターを

制定いたしました。

全国からは400件もの応募があり、本学の役員や学外委員を含めた選考委員会によりその中から厳正に審査し、選定いたしました。その後、本学において受賞者の方への表彰式も執り行いました。



表彰式の様子



シンボルマーク

・奈良県立医科大学のイニシャル「N」をモチーフにしたもので、二重の円弧は医学と看護学の支え合う関係を意味し、そこから伸びる葉形は医療人としての成長・未来への飛躍をイメージし、本学が発展していく様を象徴しています。



イメージキャラクター

・【しょうとくた医師くん】
・歴史上数々の偉業を成し遂げた奈良県にゆかりのある聖徳太子がモチーフ。

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、平成29年3月までに累計1,287件のご寄附をいただいております。

なお、今号では、平成29年1月～3月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

平成28年12月以前のご芳名については、本学「未来への飛躍基金」HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>) に掲載しております。

【個人】

◆累計30万円以上100万円未満

江川 信一 様 藤岡 政行 様
八木 正躬 様 山田 秀樹 様
掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆累計10万円以上30万円未満

大石 元 様 西川千香子 様
宮内 義純 様
掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆累計10万円未満

小山 文一 様 森藤 哲章 様

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

村上 真也 様

【法人・企業】

◆累計10万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 1法人
(五十音順)

「未来への飛躍基金」の寄附者銘板を設置しました

日頃は「未来への飛躍基金」に対しご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、寄附者様のご芳名を紹介する銘板を、附属病院E病棟1階エスカレーター前通路に設置いたしました。

この銘板は、平成27年5月に創設した本基金に多大の貢献をいただいた方を末永く顕彰させていただくため、累計30万円以上の寄附者様を対象に紹介させていただくものです。

御協力いただいた皆様のご厚志は、平成28年度から早速、教育の充実や環境改善など基金の趣旨に沿って、有意義に活用させていただいております。

引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



Winner Report

1.21 第38回日本エンドメトリオース学会において 1.22 演題発表賞(基礎部門)を受賞しました

産婦人科 助教 山田 有紀

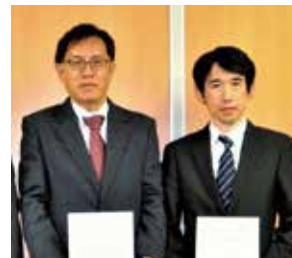
平成29年1月21日・22日に開催された第38回日本エンドメトリオース学会におきまして、演題発表賞(基礎部門)を受賞いたしました。受賞題目は「チョコレート嚢胞の癌化におけるヘムオキシゲナーゼ1(HO-1)の関与」です。チョコレート嚢胞内には多くの鉄が含まれており、鉄の酸化ストレスが癌化の原因のひとつと考えています。今回、チョコレート嚢胞癌化における酸化還元制御に、HO-1発現M2型マクロファージが関与していることが示唆されました。この研究を進展させ、チョコレート嚢胞癌化の機序を明らかにしていきたいと考えています。本受賞にあたり、ご指導いただきました産科婦人科学教室小林教授に深くお礼申し上げます。



3.7 平成28年度FD活動表彰式を行いました

生化学 教授 高澤 伸
放射線腫瘍医学 教授 長谷川 正俊

平成28年度は全9回のFDが開催されました。平成28年度FD活動の表彰については、医学科医学教育フォーラム(テーマ:「アウトカム基盤型医学教育カリキュラムの実質化」(基調講演とワークショップ))における活動と提出されたレポートにより、本学にとつて有意義であり、非常に充実した意見を発表いただいた方を対象といたしました。結果、2名の先生が細井学長より表彰されました。



高澤伸教授(左)、長谷川正俊教授(右)

3.7 平成28年度TBL Best Teacher 表彰式を行いました

基礎医学I TBL Best Teacher 生化学 講師 廣中 安佐子
基礎医学II TBL Best Teacher 病理病態学 助教 辰巳 佳弘
臨床医学 TBL Best Teacher 内科学第三 准教授 美登路 昭
放射線医学 講師 伊藤 高広

本学では、双方向性授業の導入のための教育手法として以前よりTBL(Team Based Learning)を導入してきました。昨年度行われた基礎医学I(医学科2年生)、基礎医学II(医学科3年生)、臨床医学(医学科5年生)におけるTBL(Team-Based Learning)で、学生アンケートにて「一番興味を持ったTBL」に選ばれた担当教員がBest Teacherとして細井学長より表彰されました。

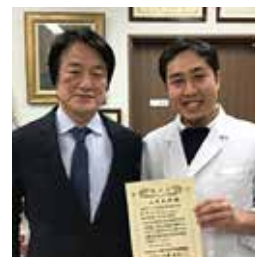


廣中安佐子講師(左から3人目)、伊藤高広講師(真ん中)、美登路昭准教授(右から3人目)、辰巳佳弘助教(右から2人目)

3.16 第33回内藤記念海外研究 留学助成金をいただきました

精神医学講座 助教 山室 和彦

この度、「社会性行動の神経回路基盤の解明とその克服」を研究テーマとして、第33回内藤記念科学振興財団海外研究留学助成金を頂きました。このような基礎研究の分野で著明な財団から海外研究留学助成金を受賞できたのも、岸本教授を中心に諸先輩方々が臨床研究のみならず基礎研究にも力をいれ業績を蓄積してきたからこそであると思います。この場をお借りして深く御礼申し上げます。今年4月からマウントサイナイ大学に留学させて頂くことになっていますが、この期間は基礎研究に没頭し、今回の助成金に採択して頂いたことを励みに、今後益々、研究に精進したいと思います。



3.27 第32回欧州泌尿器科学会においてThe Best Poster 賞を受賞しました

泌尿器科学 大学院生・医員 堀 俊太

このたび、ロンドンで開催された第32回欧州泌尿器科学会(平成29年3月24~28日)においてThe Best Poster賞を受賞いたしました。「Evaluation of pro-and anti-tumor effect induced by three colony-stimulating factors, G-CSF/GM-CSF/M-CSF using a human bladder cancer xenograft model: Is G-CSF a friend of cancer cells?」が

受賞演題です。膀胱癌に対する3つのコロニー刺激因子の影響について検討し、膀胱癌化学療法中の好中球減少症に対して用いるG-CSFが癌微小環境を通して癌増殖に関与する可能性を示しました。癌免疫や癌微小環境に着目し、今後の治療や臨床応用に向けて貢献できるよう、努力したいと思います。



E 棟部門紹介

E棟5階(総合周産期母子医療センター 胎児母体集中治療部門) E棟6階メディカルバースセンター

平成28年9月18日、A棟より無事引越しを済ませました。3病棟が1度に引越し、大変でしたが、新しく明るい病棟で可愛い赤ちゃんに癒されながら心機一転頑張っています。

病床数は、産科30床(個室10床)、MFICU6床、メディカルバースセンター8床です。

4月より新しいスタッフも迎え、小林教授をはじめ23名の医師、助産師41名、看護師4名のスタッフで毎日めまぐるしく変わる妊産褥婦と新生児の治療及びケアにあたっています。

産科病棟・MFICUは、総合周産期母子医療センターとして、県内の中核病院に位置づけられ、様々な合併症や疾患をもつ母児を対象とし24時間体制で稼動しています。また、他病院からの搬送を受け入れており、緊急性の高い病棟です。その中で平成28年度分娩数は約1000件となりました。また、ある一定の治療を要する新生児は、今まで産科で入院管理を行っていましたが、新生児集中治療部門が増床となり、正常新生児とのすみわけが確立されたと同時に連携がますます必要になってきています。

メディカルバースセンターでは、妊娠期から分娩、産褥、新生児期にわたり助産師が主体的となり管理しています。妊婦健診や保健指導、授乳ケアを通し、継続的な関わりを行い、女性が本来持っている産む力が最大限に発揮できるよう寄り添った

看護(助産)の提供を行っています、妊産褥婦さんからも良い評価を得ており、リピーターも増えています。

私達助産師は、入院中に限らず、妊産褥全期間を通し、マタニティ相談室での保健指導や妊娠時期に応じたマタニティクラスのカンファレンスの開催、退院後の一ヶ月健診や2週間健診、授乳ケア外来等、様々な場面で様々な対象や家族に対しケアを行っています。退院後も安心して育児できるよう地域と連携し切れ目のない看護(助産)を提供しています。ここ数年は、社会的ハイリスクが増え、周産期カンファレンスを通しより密に地域と連携し妊娠前からフォローしています。

新病棟になり、分娩で入院された方には、個室でゆっくり入院生活を送っていただけるようになりました。分娩時には広々としたLDRで家族立会いでの分娩が行えます。また、公立大学病院では初めてのエステサービスや栄養管理課の協力のもと、とても豪華な出産祝い食の提供ができるようになりました。

「大学病院での分娩はちょっと…」と考えている貴女、大学病院で出産経験してみませんか？



出産祝い食



産科スタッフ その1



メディカルバースセンタースタッフ



産科スタッフ その2



MFICUスタッフ

Information

平成 28 年度 学位授与の状況

次の 41 名に博士 (医学) の学位が授与されました。(甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

本審査日 平成 28 年 6 月 14 日 (火) 6 名

- (甲) 後岡 克典 視覚統合医学
- 岩田 栄一郎 運動器再建医学
- (乙) 中西 昭登 整形外科学
- 宗本 充 整形外科学
- 市橋 成夫 放射線医学
- 橋本 彩 放射線医学

本審査日 平成 28 年 9 月 13 日 (火) 4 名

- (甲) 前屋敷 明江 公衆衛生学
- (乙) 岸本 裕子 地域健康医学
- 大田 正秀 第二内科学
- 野口 武俊 産婦人科学

本審査日 平成 28 年 11 月 8 日 (火) 11 名

- (甲) 奥田 哲教 運動器再建医学
- 勝井 龍平 運動器再建医学
- 吉良 務 運動器再建医学
- 仲西 康顕 運動器再建医学
- 藤高 紘平 運動器再建医学
- (乙) 妹尾 絢子 第一内科学
- 中川 信 整形外科学
- 岸本 直子 精神医学
- 長 徹二 精神医学
- 松成 泰典 麻酔科学
- 中井 登紀子 病理診断学

本審査日 平成 29 年 3 月 7 日 (火) 19 名

- (甲) 橋本 顕子 精神医学行動神経科学
- 松岡 究 精神医学行動神経科学
- 井上 和也 放射線治療専門医養成コース
- 曾山 奉教 発生・発達医学
- 西村 典久 消化器病態・内分泌機能制御医学
- 宮田 季美恵 視覚統合医学
- 丸谷 明子 脳神経機能制御医学
- 上山 善弘 口腔・顎顔面機能制御医学
- 松下 千枝 泌尿器機能制御医学
- (乙) 河本 慶子 公衆衛生学
- 藤田 幸男 第二内科学
- 杉江 美穂 神経内科学
- 川口 千尋 消化器・総合外科学
- 長井 美奈子 消化器・総合外科学
- 山下 慶悟 胸部・心臓血管外科学
- 峯 正志 眼科学
- 恵川 淳二 麻酔科学
- 堀田 聡 口腔外科学
- 高野 将人 病理診断学

本審査日 平成 29 年 3 月 21 日 (火) 1 名

- (乙) 西和田 敏 消化器・総合外科学

第 8 回 リウマチ市民公開講座

開催日：平成 29 年 7 月 2 日 (日)

13:00 ~ 15:30

場所：王寺町地域交流センター

リーベルホール

概要：テーマ「ともに歩もう
リウマチ治療」

講演者：リウマチセンター

原 良太 診療助教 他

対象：県民

定員：300 名

備考：事前申し込み必要
参加無料

問合せ先：リウマチセンター

0744-23-9972

内線：4260

奈良新聞社企画部

0742-32-2771

平成 28 年度 (第 3 回) 若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

平成 28 年度 (第 3 回) 若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の 3 名の
方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍で
きる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るた
め、10 万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

年 3 回、各所属に応募要項を案内しますので、積極的なご応募をお待ちしています。

所属所名	職名	氏名
救急医学	助教	奥田 哲教
小児科学	大学院生	矢追 博章
泌尿器科学	医員 (大学院生)	堀 俊太

平成 29 年度入学試験を実施しました

医学部医学科は推薦選抜、一般選抜 (前期日程・後期日程)
において合計 2,068 名の志願者があり、113 名が入学するこ
ととなりました。また、第 2 年次編入学試験では 23 名の志願
者があり、2 名が入学することとなりました。

一方看護学科では、推薦選抜、社会人特別選抜、一般選抜 (前
期日程) において合計 181 名の志願者があり、85 名が入学す
ることとなりました。

区分	募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (B の内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率	
医学科	推薦 (緊急医師確保)	13	153	137	14	1	13	10.9	11.3
	推薦 (地域枠)	25	173	167	25	0	25	6.9	8.2
	前期	22	324	283	22	0	22	14.7	8.7
	後期	53	1,418	288	61	8	53	23.2	13.6
	編入学 (研究医枠)	2	2	2	1	0	1	2.0	4.0
	編入学	1	21	19	1	0	1	21.0	23.0
	小計	116	2,091	896	124	9	115	16.9	11.4
看護学科	推薦 (地域枠)	35	80	79	35	0	35	2.3	1.8
	社会人	5	8	8	1	0	0	8.0	16.0
	前期 (一般枠)	35	55	53	37	2	35	1.5	1.4
	前期 (地域枠)	10	38	37	15	0	15	2.5	2.6
	小計	85	181	177	88	2	85	2.1	2.0
医学部	合計	201	2,272	1,073	212	11	200	10.7	7.3

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
1月15日	熱海新聞	公衆衛生学 講師 野田 龍也	心の病気の解説を行った講演会が掲載された
1月27日	朝日新聞	公衆衛生学 准教授 赤羽 学	高齢者の安否確認をするシステムを関電と共同開発した旨が掲載された
1月29日	十勝毎日新聞	公衆衛生学 教授 今村 知明	食の安全性についてコメント
2月 3日	奈良新聞	透析部 部長 吉田 克法	腎臓移植についてコメント
2017年 2月24日	産経新聞	救急医学 教授 奥地 一夫	ドクターヘリについてコメント
3月14日	テレビ朝日	名誉教授 大崎 茂芳	クモの糸について取材
4月20日	奈良新聞 毎日新聞		
4月21日	読売新聞	—————	奈良県立医科大学の将来像が掲載された
4月25日	朝日新聞		

編集後記

「奈良県立医科大学の将来像」が取りまとめられ、また新たなシンボルマークも制定されました。創立から70年が過ぎた今、本学は新しい奈良県立医科大学づくりの機会を迎えています。

この将来像を実現させるためには、私たち職員が一丸となり、将来像に掲げる理念や方針に則して様々な課題に取り組まなければなりません。今一度気持ちを新たに、よりよい医科大学づくりに励んでいきたいと思っております。

